

# 平成28年9月台風第16号における治水効果 ～中筋川ダムにより越水による堤防決壊を回避～

425mm(時間最大85mm)の雨

中筋川ダム上流域において、9月18日22時～9月20日10時にかけて **累計約425mm** (時間最大85mm)の降雨となりました。

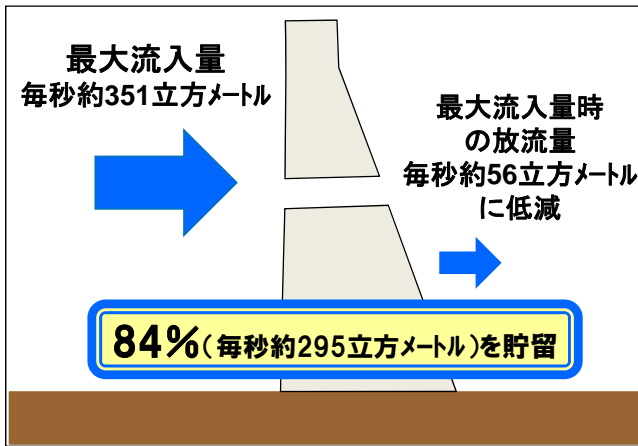
中筋川ダムにより84%を貯留

中筋川ダムへの最大流入量**毎秒約351立方メートル**の84%を貯留し、ダムからの放流量を**毎秒約56立方メートル**に低減しました。

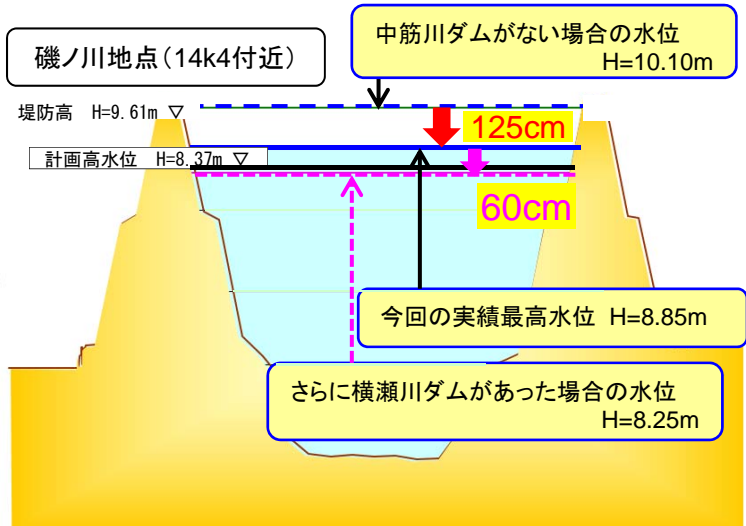
この流入量は平成11年4月のダム運用開始以降**最大**となります。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平23四複、第84号)を一部転記したものである。



中筋川ダムの防災操作状況  
(9月20日 9時00分)



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。

中筋川ダムにより河川水位を約125cm低減

中筋川ダムが無かった場合は、堤防を約50cm越水していたと推測されます。中筋川ダムの防災操作により、**磯ノ川地点で約125cm水位低減させ**、これにより**越水による堤防決壊を回避**しました。

横瀬川ダムにより更に約60cm低減

建設中の横瀬川ダムが完成していた場合は**さらに約60cmの水位低減効果**が期待でき、これにより水位を**堤防の安全性が確保される計画高水位以下**にすることができ  
ます。



磯ノ川地点(9月20日9時撮影)

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# 平成28年9月台風第16号における治水効果 ～中筋川ダムにより越水による堤防決壊を回避～

中筋川ダムの防災操作後の貯水位 約 $H=86.1\text{m}$

(9月20日12時50分)



中筋川ダムの防災操作前の貯水位  $H=72.1\text{m}$

